

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ(そよかぜユニット)		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんにも「木かげで良かった」と感じて頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑う門には福来る」の理念を掲げ、管理者の指導の下、スタッフが常に心がけ実践につなげている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣中学校2校から、職場体験としての生徒を継続的に受け入れている。主治医のお誘いにて夏祭りの参加や担当民生員さんのお誘いでイベントに参加させて頂き交流を行っている。回覧板のやり取り		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの新聞を作成し、近所の農協等に掲示させて頂き、木かげ入居者さん達の生き生きとした姿を紙面にて見て頂いている。中庭を近所の子供たちの遊び場とし自由に使ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	安心ケアセンターの職員の方や、ボランティアの方々。民生委員さんや入居者さんのご家族にて構成されている。会議までの出来事の報告や今後の予定などを紙面と共に説明をしている。その後参加者からの御意見・ご感想を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員不足に対する対応方法の相談や報告等、管理者が主に行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者の指導の下、各職員が実践中である。新人スタッフなどが理解しやすいように、日々局面に合わせて身体拘束について「なぜ、身体拘束をしてはいけないのか」等の説明をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行い、何が虐待にあたるのかを学ぶ機会を設けて、虐待防止の徹底に努めている。管理者はなるべくスタッフの話(不安な事や悩み事・人間関係など)を聞ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は行っていないが、三人の入居者さんが、該当されているため今後の勉強会にて、学ぶ機会を作る予定である。管理者は成年後見制度について、ご家族からの相談にのったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が主に行っている。契約説明時、重要事項を初めとし木かげの方針、看取りに対する姿勢などをお伝えし、納得して頂いた場合のみ契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見用紙とご意見箱を設置している。ケース会議や運営推進会議を通じて、意見を頂く機会を設け運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見を直接現場スタッフから代表者に言う事はなかなか難しいが、現場から出た意見を、管理者に伝え管理者から社長(代表者)に伝え職場環境の改善等に反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が直接見る機会は少ないが、管理者が職員個々の勤務状態などに合わせた指導に心掛け、2、3カ月に一度の代表者会議(社長・管理者2名)にて報告、改善についての提案・実行につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内では主に管理者が行っている。スタッフ一人一人に合わせた指導している。外部の研修案内などをコルクボードに貼り出し、参加希望者には日程の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者や福祉用具業者などとの情報交換をしたり、他市町村同業者とも交流を図れる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や趣味趣向などの情報をご家族から予め頂き、職員間で共有したり、ご本人とゆっくりお話をする時間を作り、「ご本人の思い」をお聞きしたりしたうえで、日々の生活支援に取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の段階から、ご家族の不安に感じていることや困っていることなどを伺い、管理者の経験談を基にお答えしたり電話での相談もして頂ける様にしている。入居契約時にも疑問が残らないように、その都度質問をしやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームであるため他の介護サービスとの併用は難しいが、必要に応じた支援ができるよう可能な限り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場の主役は、入居者さんであり、日々の生活支援ができる様、実践中である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、毎月手紙を送り、日々の状態をお伝えし、入居者さんの状態を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族より頂いた情報を基に、馴染みの場所や馴染みの方のお話をさせて頂いたりしている。時にはご家族やご友人等にお電話をして頂いている。ご家族様や、ご友人が訪ねて来られた際はゆっくりお話できる環境作りを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん一人一人に合わせ孤立した状態にならないよう努めている。耳の遠い方が多いのでスタッフが間に入り会話の架け橋となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が死去にて終了となっているが、終了後のご家族さんが遊びに来てくださったりしている。ご家族の相談にのれるようにしている。事業所のイベントを手伝って頂いたり、良好な関係を保っていると思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のお聞きしたり、お話が難しい方にはご家族に希望を伺い、ご本人の立場や気持ちになって考えられる様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時ご家族から頂く生活歴等を基にし、ご本人とお話をさせて頂きご本人の立場や気持ちになって考えられる様努めている。本当はご家族と暮らしたい!!ご家族の代わりにはなれないが近づける様努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	簡単なスケジュールは決まっているが、なるべくご本人のその日の様子(体調や気分)に合わせて生活支援ができる様心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度ケース会議を行い、ご本人・ご家族様、スタッフの意見を取り入れご本人の負担にならないような介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録からの情報をスタッフ間で共有し、日々のケアに取り入れるようにしている。特記事項は、ケース記録に赤で記入し、一目で見分けるようにしている。ケース会議の前にも改めて意見を収集し際に個々に発表している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意志、ご家族様の思いに答えられる様、日々柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者さんと、一緒に近所のセブンイレブンや農協直売所に買い物に出かけたり、回覧板の受け渡しや近所のイベントに参加させて頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居契約時に主治医の変更をするか今までのかかりつけ医にするかをご本人・ご家族に選んで頂いている。医療機関に対して、連絡を密に行っている方だと思う。お互いに良好な関係を築けていると思う。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	修末期の訪問看護については、交換ノートなどを利用し情報交換をしている。定期受診などには日々の関わりの深いスタッフが同行し、日々の様子や状態を医師・看護師に伝え、指示やアドバイスを頂き実行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による環境の変化が、入居者さんにとって出来るだけ負担にならないよう、入院先へ地域医療連携シートやアセスメントシートなど、ご本人の日々の様子がわかるものを送付させて頂いている。退院に関してはご家族様の意向と木かけでの受け入れ態勢の折り合いをつけ支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時にも看取りについてのお話をさせて頂いている。終末が近づいたころに、今後どのようにしたいかと言う事をご家族様や医師と話しあい、ご家族様の希望に添った形になるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い学ぶ機会を設けている。新人スタッフの教育時にも緊急時急変時の対応についての説明をしている。道具を使い身振り手振りでわかり易く説明できていると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回(そのうち一度は消防署員にも指導して頂いている)避難訓練を行っている。また他の施設とも情報交換等の連絡を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った話しかけをしている。方言が伝わりやすい方には方言を織り交ぜ、個人々人としての接し方をさせて頂きながら、日々の生活支援としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの選択肢をご用意し、ご本人に選んで頂ける環境作りに努めている。意思決定が出来ない方には、表情にて察することが出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望にそえるようにはしているが、入居者さんの状態や状況によっては、職員がペースを作らせて頂く事もある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみの中で、ご自分でできるところはして頂いている。ヘアカットは訪問美容をお願いしている。普段のマニキュアや外出時・イベント時にはお化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理(皮むき・刻み等)や盛り付けを職員と共にやって頂いている。畑の作物を利用し、季節の野菜を味わって頂いている。目で見ても楽しめるよう、色々な器を使い盛り付けに工夫している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使用し、スタッフ間で共有し適宜摂取して頂ける様支援している。管理栄養士のメニューを専門の調理師が木かけのキッチンで作った物を提供している。ご本人の状態や力に合わせ、形態や味付けの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きなど口腔ケアを個々に合った方法で実践している。月一回の訪問歯科による機械を使用した口腔ケアを行っている。ご本人の訴えやスタッフの情報にて、定期以外にも歯科医師に相談し適宜訪問をして頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付けさせて頂き、ご本人のペースに合わせて排泄支援をしている。訴えが出来ない方などでスタッフ都合にて時間を見てトイレに座って頂き排泄をして頂ける様実践している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をスタッフ間にて共有し、便秘薬(処方薬)の内服をして頂いている。個人個人に合わせた乳製品やオリゴ糖など便通を促す食品を摂取して頂いている。お腹のマッサージや身体を動かして頂ける環境を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっていないが、スタッフの勤務状況に合わせ、時間は決めてしまっている。会話の中で「お風呂に入りたい」と気持ちが動くような話題を振り、気持ち良く入浴して頂ける様に心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時に、いつでも居室で休んで頂ける環境作りに努めている。時には、ソファで転寝をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の使用目的は把握しているが、詳しい副作用については全員が把握しているとは言えない。服薬についてはスタッフ同士で確認「〇〇さんの昼薬の内服します」などの声掛けをしながら、確認を取り合い内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴などの情報から、好きな食べ物好きな場所好きな歌などを読み取り、日々の生活の中で活用している。スタッフが、なじみの歌を歌うだけでも幸せな表情になって頂いていると思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では、ご本人からの要望が無く、こちらからお伺いしても「めんどくさいからいいわ」等との返答が多くなっている。なるべく会話の中で「桜が咲きましたね〜」「お寿司が食べたいですね」等とお話をさせて頂きお誘いをし、ご本人のご要望に合わせ個別で行事を企画したりしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いの結果にて、ご自分で管理されている方は現在いない。ご本人には「ご家族からお金を預かっているから、いつでも言って下さい」と、こちらで預かせて頂いていることと、いつでも使える事をお伝えしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの訴えが無く、こちらから声掛けし「○○さんに電話してみませんか？」とお勧めし、電話をして頂いたりしている。賀状等は頂いた賀状のお返事を書きませんか？と伝えてはいるが「めんどくさい」と実行には至っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余り刺激の強い照明を使ってはいないが、テレビや音楽はほとんどの方の耳が遠い為、比較的音量が大きくなってしまっている。スタッフの立てる音にも十分注意しているつもりになっているが、配慮に欠けている部分も否めない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に合わせて、居室にて休んで頂いたり、仲の良い方を過ごして頂ける環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やご本人の馴染みの物、趣味の物などを、お部屋に置かせて頂いている。残念ながら、ご自宅で使用していた家具類は入居時に新しい物に交換されてしまっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色々な所に手すりをつけており、歩行がしやすいようになっている。居室の前にネームプレートを付けさせて頂いたり、トイレの前に看板を付けさせて頂き、最低限お部屋、トイレとご自分で自由に行けるようにしている。。		